

Ⅲ 生活場面「働く」

【1】第4次大阪府障がい者計画(後期計画)における整理

<めざすべき姿>

障がい者が働くことを当然と考え、能力や適性を活かして仕事に就き、働き続けている

【今後の主な課題】

- 障がい者雇用の拡大と職場における障がい理解の促進
- 就職から職場定着、再就職支援までの関係機関による支援ネットワークの構築・強化
- 就労移行支援・就労継続支援事業の機能強化
- 障がい特性や個々の適性等に応じた効果的な職場定着支援

【個別分野ごとの施策の方向性】

- (1) 実際に多くの障がい者が働いている
- ① 障がい者雇用の拡大
- ② 企業等の障がい者雇用に対する理解促進
- ③ 就労に向けた関係機関の連携
- (2) いろいろな場で障がい者が仕事ができる
- ① 就労移行支援・就労継続支援事業の機能強化
- ② 工賃水準の向上
- ③ 企業等への雇用だけでなく多様な障がい者の働く場の拡大
- (3) 障がい者が長く働き続けることができる

【2】平成28年度障がい者の生活ニーズ実態調査の分析

表1 「今の就労状況」×「今の暮らし」

	一人暮らし	親や兄弟	配偶者や子ども	友達とグループ	入所施設	病院	総計
正社員	30	46	74	2	2	0	154
正社員以外	37	144	78	3	1	0	263
自営業	9	15	47	0	0	0	71
就A	8	28	2	0	1	0	39
就B	21	83	4	15	7	0	130
就労移行支援事業所	1	26	1	3	0	0	31
その他福祉的就労	3	41	4	13	9	0	70
働いていない	213	657	521	17	93	19	1,520
総計	322	1,040	731	53	113	19	2,278

表2 「今の就労状況」×「今後希望する就労状況」

	正社員	正社員以外	自営業	就A	就B	就労移行支援事業所	その他福祉的就労	働きたくない	総計
正社員	119	7	13	1	0	1	2	5	148
正社員以外	137	93	14	2	0	0	5	4	255
自営業	4	2	49	0	0	1	1	6	63
就A	12	8	0	12	0	3	2	0	37
就B	18	16	1	15	59	3	12	0	124
就労移行支援事業所	7	6	0	1	3	7	5	1	30
その他福祉的就労	5	5	0	6	7	4	42	2	71
働いていない	290	149	37	44	48	27	99	475	1,169
総計	592	286	114	81	117	46	168	493	1,897

<分析結果>

・現在の就労状況として最も多い回答は「正社員以外(アルバイト、パート、契約社員、派遣社員、日雇い等)」となっており、次いで「正社員」、「福祉的就労(就B)」となっている。ただし、有効回答者の約67%(1,520人/2,278人)は働いていないとの回答であった(表1)。

・暮らしの状況別では、親や兄弟と暮らしている人が最も多く就労しており、次いで配偶者や子どもと暮らす人、一人暮らしの人となっている。また、配偶者や子どもと暮らす人や一人暮らしの人の就労は、「正社員」や「正社員以外」、「自営業」が多くなっている(表1)。

・今の就労状況と今後希望する就労状況との相関では、正社員になりたいと回答した人が最も多いが、一方で、働きたくないと回答した人も同程度であり、回答者の約96%(475/493)は現在も働いていない人であった(表2)。

・正社員以外の方は、今後希望する就労状況を「正社員」と答えた人が最も多いが、その他では引き続き同じ形態で働きたいと回答している人が多い(表2)。

表3 「今の就労状況」×「働き続けたいと思う理由」

	生活に必要なものを自分で買える	自分の好きなことにお金を使える	一人暮らしをしたり、好きな人と一緒に暮らせる	人とかかわる中で嬉しいことがある	仕事が好き、自分に自信が持てる	総計
正社員	85	70	13	42	49	259
正社員以外	155	134	24	86	68	467
自営業	25	17	4	26	36	108
総計	265	221	41	154	153	834

表4 「今の就労状況」×「働き続けるために望むこと」

	職場において仕事のやり方をサポートして欲しい	自分の障がいや病気のことを職場に理解して欲しい	職場で仕事の悩みや困りごとなどを相談できる場所や人が欲しい	色んな働き方を認めて欲しい	職場での人とのかわり方を教えて欲しい	職場以外で仕事の悩みや困りごとなどを相談できるようにして欲しい	職場以外で働いている障がいのある仲間とのかわりが欲しい	総計
正社員	27	43	24	38	7	18	10	167
正社員以外	55	93	51	47	20	33	16	315
自営業	4	5	2	6	1	5	3	26
総計	86	141	77	91	28	56	29	508

表5 「今の就労状況」×「外出時に困ることや不便に思うこと」

	道路に段差がある、信号や視覚障がい者誘導ブロックがわかりにくい	建物の設備(階段、トイレ、エレベーター等)が不便	通行車両(自動車や自転車など)が危ない	公共交通機関(バス・電車など)が利用しにくい	移動支援サービス(ガイドヘルプ)が利用しにくい	困ったときに周囲の手助けがない(お願いしにくい)	その他	特にない・ほとんど外出しないのでわからない	総計
正社員	11	24	27	23	3	21	16	56	181
正社員以外	9	45	39	30	13	50	24	116	326
自営業	8	16	13	11	2	8	6	22	86
総計	28	85	79	64	18	79	46	194	593

<分析結果>

- ・正社員、正社員以外、自営業の人が働き続けたいと思う理由で最も多い回答は「生活に必要なものを自分で買えるから」、2番目に多い回答は「自分の好きなことにお金を使えるから」となっており、それら2つの回答が全体の約60%(486人/834人)を占めている。一方で、自営業の人が働き続けたいと思う理由で最も多いのは「仕事が好きだから(やりがいを感じられるから)、自分に自信が持てるから」となっている(表3)。
- ・正社員、正社員以外、自営業の人が働き続けるために望むことで最も多い回答は「自分の障がいや病気のことを職場に理解して欲しい」であり、次いで「色んな働き方(短時間勤務、フレックス勤務など)を認めて欲しい」、「職場において仕事のやり方をサポートして欲しい」となっている(表4)。
- ・正社員、正社員以外、自営業の人が外出時に困ることや不便に思うことで最も多い回答は「建物の設備が不便」となっている。一方で「通行車両が危ない」、「公共交通機関が利用しにくい」、「道路に段差がある、信号や視覚障がい者誘導ブロックがわかりにくい」、「移動支援サービスが利用しにくい」など移動に関する困りごとを回答している人は約32%(189人/593人)となっている(表5)。

表6 「今の就労状況」×「働きたいと思う理由」

	生活に必要なものを自分で買える	自分の好きなことにお金を使える	一人暮らしをしたり、好きな人と一緒に暮らせる	人とかかわる中で嬉しいことがある	仕事が好き、自分に自信が持てる	総計
就A	20	20	3	16	8	67
就B	54	54	13	60	45	226
就労移行支援事業所	17	16	4	15	6	58
その他福祉的就労	20	43	4	27	21	115
働いていない	207	197	50	160	96	710
総計	318	330	74	278	176	1,176

表7 「今の就労状況」×「働けないと思う理由」

	身体や気持ちがいしんどくなる	自分の思うように時間が使えない	自分の思うようなお金が手に入らない	注意されたり怒られたりするのが嫌	職場の仲間と上手に接することが難しい	職場に障がいや病気があることを知られたくない	家族や周囲の支援者が反対する	総計
働いていない	443	77	21	77	127	39	38	822
総計	443	77	21	77	127	39	38	822

表8 「今の就労状況」×「働くために望むこと」

	職場において仕事のやり方をサポートして欲しい	自分の障がいや病気のことを職場に理解して欲しい	職場で仕事の悩みや困りごとなどを相談できる場所や人が欲しい	色んな働き方を認めて欲しい	職場での人とのかわり方を教えて欲しい	職場以外で仕事の悩みや困りごとなどを相談できるようにして欲しい	職場以外で働いている障がいのある仲間とのかわりが欲しい	総計
就A	17	11	11	3	3	4	4	53
就B	42	42	28	12	19	11	11	165
就労移行支援事業	12	16	9	3	5	3	4	52
その他福祉的就労	35	15	7	4	5	2	4	72
働いていない	272	414	159	218	73	88	50	1,274
総計	378	498	214	240	105	108	73	1,616

<分析結果>

- ・福祉的就労(就A、就B、移行支援事業所、その他)及び働いていない人が働きたいと思う理由で最も多い回答は「自分の好きなことにお金を使えるから」であり、次いで「生活に必要なものを自分で買えるから」であった(表6)。
- ・働いていない人が働けない理由は「身体や気持ちがいしんどくなるから」が最も多い回答であった。また、福祉的就労(就A、就B、移行支援事業所、その他)及び働いていない人が働くために望むことで最も多い回答は「自分の障がいや病気のことを職場に理解して欲しい」であった。また、福祉的就労の人では、職場での障がい理解よりも「職場において仕事のやり方をサポートして欲しい」と回答している人の方が多い(表7、8)。

